リボーンに転生トリップしちゃいましたー!?

水月穂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
リボーンに転生トリップしちゃいましたー！？

【Ｎコード】
Ｎ０１３２Ｚ

【作者名】
水月穂

【あらすじ】
はい、はじめまして

水月穂です

フラン大好きです

設定

吹雪　雪
大人しくて優しい性格
いつもニコニコしていて皆を癒してくれる
喋り方はフランと同じ
転生する前は中二
二重人格で普段は優しくて冷静だがもう一つの人格は残酷で熱い性格
もう一つの人格の名前は霰（あられ）
そのせいでかなり頭を悩ませてる
転生する前、事故で家族全員死んでる
属性は大空の七属性と雪
武器は幻術、ナイフ↑霰の時に使う、扇

吹雪　霰
事故で死んだ雪の姉
熱い性格
今は人格として雪の中に取り付いてる

属性、雪の説明
雪の炎は白くて雪の結晶が舞っている

雪の特性は凍結

プロローグ

雪ｓｉｄｅ

部活で遅くなりました

買い物して帰らないとです

今日はテストで１００点取ったからご褒美にハーゲンダッツでも買いましょうかね……

ん？

猫「ニャン」

猫が道路に飛び出しました

危ない！！

ミーは咄嗟に猫を庇って宙に舞いました……

朦朧とする、意識の中で見たものは、血まみれになってる猫です……

……守れなかったんですね

そこで私の意識がなくなりましたー

雪「ここは……何処ですか？」

ここは真っ白な部屋

猫「ニャン♪」

雪「お前も来たんですか？」

猫「そうだよ、雪ちゃん♪」

雪「へ？喋った！？」猫『私の言葉が分かるの！？』

ガチャ

雪、猫「？？！」

？？？「えっと……その……スマン！！」

雪「なんで謝ってるんですか？」

？？？「わしは神様なんじゃが、おぬしを誤って殺してしまったんじゃ」

雪「それは仕方のないことですよ、命あるもの必ず死ぬんですから」

神様「じゃが……そうだ！！おぬしをリボーンの世界に転生させてやる」

雪「本当ですか？！」

神様「あぁ、そのかわりアルコバレーノになってもらうがな」

雪「へ！？」

神様「おぬしには雪という珍しい属性が有るから」

雪「そうなんですか……分かりました」

神様「原作ブレイクもやっていいし、あと、未来編に近づいてきたらちょう強力なおしゃぶりケースをやろう」

雪「分かりました」

神様「それとその猫をペットにもして良いぞ？」

猫『やった』

神様「雪の炎の特性は凍結じゃ、くれぐれも気をつけるように」

雪「はい」

一話　アルコバレーノになる日

雪ｓｉｄｅ

あれから3年が経ちました……

三年間の事を纏めると

1. 私は大空の七属性全部を持っていること
2. 神様から連絡があって虹の属性っていうイレギュラーがある
3. 原作にはでてこないイレギュラーが出てくる可能性がある
4. 早速虹の波動を持つイレギュラーを発見
5. フランが虹の波動を持ち、今日、一緒にアルコバレーノになる
6. 私とフランは幼なじみ
7. なんだかんだでフランと一緒に骸との修業を受けている

……しかしフランと幼なじみでイレギュラー化するなんて驚きです

だってフランは私の見たところ十代、でもそれは十年後の歳であって、原作突入時はまだ一桁の歳のはず……

しかもこれは原作突入時の十年前くらい……

あ、そういえば九代目はもうツナに会いましたかね？フラン「雪？

行きましゅよー？」

雪「うん」

因みに私が転生者ということは言ったよ

師匠にも……

ちゃんと受け止めてくれて嬉しかったな

あ、因みにここはイタリアのホテル

とりあえず幻覚で親を作っといた

雪「行こう、フラン」

フラン「はいー」

待ち合わせ場所

？？？「遅い……」

？？？「ムムッ…僕を待たせるなんて罰金だよ」

？？？「しょうがないですよ、まだ三歳児なんですから」

？？？「そうよ……それにそろそろ来るわ」

？？？「しかし、なんであんな小さな子が選ばれたんだ？」

???「あいつら小さいながらかなり凄腕のヒットマンだ」

???「あんな小さい子供がか！？」

???「俺が調べたところ、最近有名になってきた奴らだ」

???「通り名は？」

???「コンビ名はアルカンシャル・ネージュ、通り名はフランのほうが虹の幻術師、雪のほうが二重の雪」

???「二重？」

???「由来は二重人格で普段は穏やかで殆ど幻術で倒してるがもう一つの人格は熱く残酷にナイフで殺して来た、雪の通り名は後二つ有るが聞くか？」

???「どんな通り名？」

???「雪の舞姫、雪の切り裂き姫」

雪「……何勝手に人のことはなしてるんですか？ヴェルデ」

ヴェルデ「ふん、何故お前達が最強の九人に選ばれた理由を話してただけだ」雪「あ、そう」

フラン「えっと」

雪「遅れました、先輩方」

フラン「すいませんでしたー」

リボーン「棒読みで言われてもな」

フラン「あ、これがミーの喋り方でしゅのでー」

雪「早く逝きましょう？」

ルーチェ「漢字が違うわよ……」

雪「ところでお腹の赤ちゃん元気ですか」

ルーチェ「えぇ」

雪「よかったです」

ルーチェ「ありがとう」

リボーン「あの二人……気が合うみたいだな」

フラン「二人とも、人を疑う事を知りましぇんから」

リボーン「言うじゃねぇか……気に入った」

フラン「どうもでーしゅ」

バイパー「和んでる暇があるなら早く目的地に行ったほうがいいと思うよ」

あんまし行きたくないけど……

しょうがないよね……

ルーチェもそれを覚悟の上でアルコバレーノになったんだから私も逃げちゃダメ！！

そして山道

そろそろかな？

ザッ

ラル「誰だ！！」

？？？「俺だ、コラッ」

ラル「……コロネロ？！」

コロネロ「そうだ、コラッ」

雪「着いて来たんですね」

コロネロ「……？小さい子供？か、コラッ」

雪「失礼なお兄ちゃんです」

フラン「まあまあ」

コロネロ「ところでこいつ、さっきからついて来てるんだけど？コラッ」

猫『雪ちゃん♪』

雪「ミルク？！」

ミルク『ついて来ちゃった』

雪「どうして……」

ミルク『だって雪ちゃんが心配なんだもん』

雪「ミルクが私を心配してくれるのは嬉しいけど……」

リボーン「…？猫の言葉が分かるのか？」

フラン「動物の言葉が分かるらしいでしゅー」

リボーン「ほう」

ルーチェ「素晴らしい能力ですね」

そしてなんだかんだで山の頂上

ラル「コロネロは離れていろ」

コロネロ「…？分かったぜ！！コラッ」

フラン「疲れましたー」

雪「私も……」

フラン「あれは……」

雪「とうとうです」

フラン「そうですねー」

グワッ

一同ー雪、ルーチェ「…！？」

今私達の目の前にどす黒いものが迫ってきてます

フラン「怖い……」

雪「フラン……」

ギュッ

フラン「…！？」

雪「大丈夫ですよ、私がついてます」

フラン「はいー」

コロネロ「くっ！？」

呪いが掛かる瞬間、コロネロが飛び出しましたーラル「…！？コロネロ！！」

ピカッ

雪「えっと」

フラン「うーんとー（。・　。）」

雪「フラン……だよね？」

フラン「はいー…雪……でしゅか？」

雪「うん」

フラン「目線が低いでしゅー」

雪「私達はそんなに変わらない気がしますけど？」

フラン「それもそうでしゅねー」

一同一雪、フラン「……」

雪「やっぱこの運命はまだ誰も受け止めれませんか……」

フラン「この体、成長しないんでしゅよね？」

雪「大丈夫ですよ」

フラン「？？」

雪「ルーチェ、帰ってもいいですか？」

ルーチェ「えぇ、解散よ」

雪「行きますよ」

フラン「待ってくださいー」

リボーン「…餓鬼は無邪気だな」

風「でも、ルーチェの優しさとあの子達の無邪気さがあったから、私達はうちとけられたんですよ」

リボーン「言えてらぁ」

こうして、私達のアルコバレーノになった日は終わりました

2話　突然の襲撃（前書き）

一気に黒曜編まで行きました……

さぁせん

2話　突然の襲撃

雪ｓｉｄｅ

なんか作者が面倒臭がって黒曜編まで飛びました

えっと今までの事を整理すると

フランと私が付き合ってる

なんやかんやでリボーンにアルコバレーノだと言う事をばらされた

ツナとはお隣りさん

なんか神様の手違いで雪の特性と虹の特性が増えた

並中狩りが始まった

くらいかな？

雪「師匠……」

フラン「多分ミー達は狩られないとは思いますけどね……」

雪「確かに……何処の世界に弟子を狩る師匠がいるんでしょう？」

あ、因みにここは学校ですよ

獄寺（どうなってんだ？欠席してる奴が多いし……十代目も来てね

ぇ）

ピー

携帯が切れましたね

獄寺「あっ、切れた……」

獄寺「携帯の電池切れたんで帰ります」

雪「私も暇だし…帰ります」

フラン「待ってくださいー」

先生「こら、獄寺！！貴様遅刻してきて今来たばっかりだろ！！」

ガラッ

先生「お前もだ！！」

先生の声が聞こえたけど無視

並盛商店街

獄寺「……なんでついて来るんすか？」

雪「安全の為」

獄寺「そうすか……とりあえず飯でも食うか」

フラン「そうですねー」

ガサゴソ

チャリ

獄寺「げっ６５円……」

フラン「うまい棒六個買えますねー」

???「並盛中学一年Ａ、出席番号八番、獄寺隼人……」

獄寺「んん？」

フラン「柿ピー……」

千種「早く済まそう……汗、かきたくないな……」

獄寺「ふぅ……なんだ？てめぇは？」

千種「黒曜中、一年、柿本千種……お前を壊しに来た」

フラン「ミー達もいることを忘れないでくださいー、柿ピー」

獄寺「知り合いか？！」

雪「まあ……ちょっとした……兄弟子？」

獄寺「ふーん……はぁ……なんでこう毎日他校の奴に絡まれるんだ？結構地味に生きてんのに」

雪「裏社会＆ａｍｐ；不良なんだから地味に生きてるとは言わないと思うけど……」

獄寺「分かった、来やがれ
売られた喧嘩は買うのが主義だ」

フラン「これだから他校の奴らに絡まれるんですよー……」

雪「同感……」

通行人Ａ「なんだぁ？喧嘩かぁ」

通行人Ｂ「面白いじゃん」

千種「……見せ物じゃない」

シュッ

無数の針が通行人に襲い掛かる

カキン

雪「危なかった……」

私は扇をブーメランのようにして投げて千種の投げた針を防ぎました

雪「早く避難してください」

通行人ＡＢ「ひぃー」

逃げましたね

獄寺「ナイスです！！雪さん！！」

千種「……雪、邪魔しないでくれる？」

フラン「師匠といえど、仲間には手出しさせませんー」

千種「フラン……生意気……これ以上邪魔が入るとめんどい……急ぐよ」

シュッ

カキン

雪「獄寺君、こっち！！」

私は扇を盾の変わりに使い、獄寺君と物陰に隠れた

シュウ

そして獄寺君はボムを投げた

でも千種はヘッジホッグを取り出しそしてボムに攻撃した

獄寺「ヨーヨー？」

雪「そう……千種の武器は毒針が仕込んであるヨーヨー、ヘッジホッグ」

ドカーン

獄寺「うわっ」

爆発し、獄寺君が爆風に吹っ飛ばされた

クルッ

ざぁ

獄寺君は空中で回転し、見事着地

獄寺（こいつ……ただの中坊じゃねぇ……さっきといい、戦い方といい……プロのヒットマンだ！！）

獄寺「てめぇ、何処のファミリーのもんだ！？」

千種「やっと……当たりがでた……」

獄寺「あぁん！？」

千種「お前にはファミリーの構成、ボスの正体、洗いざらい吐いてもらう……」

獄寺「なにぃ！？」

シュルルル

獄寺「どぁ」

スタ

飛んで避けて綺麗に着地

獄寺「狙いは十代目か！？」

雪（早く来て！！ツナ君……）

続く

2話　突然の襲撃（後書き）

次回……傷つく友たち

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0132z/

リボーンに転生トリップしちゃいましたー!?

2011年12月1日19時47分発行